

平成25年度第3回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

平成26年3月20日（木）

10時00分～12時00分

平塚市役所南附属庁舎2階E会議室

出席者

（出席委員）

鈴木委員、長野委員、横山委員、田中委員、上野委員、今井委員、山崎委員、高橋委員、越光委員、白勢委員、城生委員

（11人出席、小宮委員、増井委員、2人欠席）

（事務局）

高梨福祉部長、田中高齢福祉課長、鎌田介護予防担当長、大木高齢福祉担当長、古尾谷主管、杉山主管、高橋主査

開会

1 福祉部長あいさつ

- ・平塚市民生委員児童委員協議会委員の改選に伴う委嘱状交付

2 議題

（進行は越光会長）

議事に入る前の報告事項

過半数の委員が出席しており、平塚市地域包括支援センター運営協議会規則第5条第2項により会議は成立。また、会議の傍聴者はなし。

（1）平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第6期〕）について

<事務局>

資料1「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第6期〕）について」に基づき説明。

《質問・意見》

特になし。

（2）平成26年度地域包括支援センターの方針について

<事務局>

資料2「平成26年度地域包括支援センターの方針について」に基づき説明。

《質問・意見》

<委員>

サポーター養成年間80人を目標とするとありますが、養成を受ければ何かその人たちが活動するような方向にいけるのですか。ただ、地域として養成するということですか。

<事務局>

認知症サポーター養成講座を受けた方が、その後というのは特にはないのですが、交流会ということで受けた方がその後どういう地域で活躍と申しますか、認知症の方に会った時にどういう対応をされたとか、こういう方がいられたとかそういう交流会をやっているのです。ただ、その方に半強制的な形で何かをやるということまではまだやってはいないです。

<委員>

私はサポーターしたいと思っているのですが、それで受けてそちらにつながるかわからない受けたことはないのですが、それではそういうつながりは考えてはいないということですね。

<事務局>

そうですね。まだ8,000人位しかいないので、まずは広めて皆さん共通理解ができるようになった時に、次に何をしたらいいかなという形で動ければと考えています。逆に認知症サポーター自体を知らない人がどうしたらいいのだろうということもありますので。

<委員>

わかりました。

(3) 医療との連携（ひらつか安心ファイル、地域サポート医、拠点薬局等）について

<事務局>

資料3「医療との連携（ひらつか安心ファイル、地域サポート医、拠点薬局等）について」に基づき説明。

《質問・意見》

<委員>

「よりそいノート」のことが同じ資料のQ&Aの中に入っておりますが、そこを見ていただければいいと思います。「安心ファイル」の方は立派な形になっておりますが、「よりそいノート」はコンパクトな形になっております。認知症の方を特化したような形になりますので、使い方は全く「安心ファイル」と一緒と思っていただいてもいいのですが、御家族と医療や介護の方たちと情報を共有するようないいものになります。配布は平塚市の方にもお願いしておりますし、地域包括支援センター、専門の医療機関等で配布しております（「よりそいノート」を順次回覧）。

(4) 地域ケア会議の概要について

<事務局>

資料4「地域ケア会議の概要について」に基づき説明。

《質問・意見》

<委員>

すごく素晴らしい会議の組織がありますけれども、役員になってなければこれに参加できないのですよね。どういうことが地域で問題になっているとか色々自分なのでできるかなという気持ちもあるのですが、担当になってなければこういう会議には出られないということですね。

<事務局>

まず地域ケア個別会議につきましては、実際お困りの方に対してケアマネさんとか、自治会、民生委員の方等色々な職種が集まって、あと医療機関の先生ですとか薬剤師さんも絡んできますが、そういった色々な多職種の中でその方についての問題を解決していくというようなことでございます。ですから会議としましてはそこに係わる方の出席ということになります。

<委員>

例えば地域のボランティアの方とかNPOの方とかのネットワーク構築ということになると小地域ケア会議の方で係られる可能性がありますよね。

<事務局>

そうですね。そういったとこで包括の方で必要だということであれば、そこにも声が掛かって出席依頼があることも想定されます。

<委員>

たまたま民生委員の方が「忙しい、忙しい」というのですね。だからそういうものにそういう役ではなくてもサポートみたいにお手伝いする項目があるのか、そういうものを聞いたいなと思って、参加できれば見つけられるのかと思って聞いてみました。わかりました。ありがとうございました。

<委員>

おそらくこれから地域でつくっていくものなので、今あるものではなくて地域住民の方とか地域の色々な団体とこれからつくっていく、地域包括ケアシステム自体がこれからの取り組みですので、これからどんどん地域包括支援センターの方に声を掛けていただければと思います。

<委員>

やりたいです。わかりました。ありがとうございました。

(5) 地域包括支援センターヒアリングの結果について

<事務局>

資料5「地域包括支援センターヒアリングの結果について」に基づき説明。

《質問・意見》

<委員>

継続加算が給与に反映されないというのはすごく意外な気がしたのですが。どこの包括も反映していないという、市の思惑と法人との間にだいぶズレがあるように感じました。実は地域包括ケアシステムをこれからつくっていくという中で、地域包括の役割はものすごく重要になってくると思います。ある程度地域に根をはって、色々な地区の民生委員さんや自治会の会長さんたちとネットワークをつくって、そのネットワークという財産をベテランの人たちは築いて持っているのですね。その人たちが離職するような職場環境にあっては、築き上げてきたものがまたゼロに戻ってしまうような由々しき事態も考えられるのではないかと感じていまして、こんな話をするのも私のクリニックのある「ごてん」の方で離職者が2名一度に発生するという話を聞きまして、これは大変なことだなと思いました。せつかく顔

の見える関係ができて、ベテランさんがやめてしまうと非常に私たちも困ってしまうことがあります。何とかその所属している法人と委託している市の委託料との中で、やはりきちんと待遇に反映させていただきたいというふうに思います。

あと運営協議会なのですけれども、今回地域包括支援センターの運営協議会ということで我々参加しているわけなのですが、本当に地域包括の運営に対して皆さんが協議しているかどうかというところが、私は非常に不満なのです。きちんと運営に関してどれだけディスカッションできているかどうか、ただ単なる事務連絡に終わっていないか、介護保険事業計画第6期については介護保険運営協議会の方で報告してもらえばいいのではないかと。この地域包括支援センター運営協議会で話し合うことはもっとあるのではないかと思います。このヒアリングの結果の中でも出てきておりますけれども、やはり運営委員の中に包括の職員に入ってもらった方がいいのではないかと思います。でないと、市の方からはあれやれこれやれ地域包括の方に言って、職員たちはてんてこ舞いなのですが、ここにもありますように自分たちの所属している法人と孤立してしまうのです。やはりその所属している所は特養だったり老健だったりその職員として雇われている、ただやらされていることは市の仕事という中で職員間の関係がうまくいかない。母体の方の職員と孤立してしまったり、待遇に不満がでてきたり色々あるのだらうと思うので、それを吸い上げる場がこういうヒアリングしかないのだとしたらちょっとまずいのかなということで、やはり地域包括の運営に関してもの申す所が必要なのではないかと私は思います。提案としては、地域包括の抱える問題がそれぞれの地域で大なり小なり共通している所があると思うので、8包括を2分割、3分割するグループみたいなものをつくって、平塚西とか平塚東とかということで4つ位の地域包括が定期的に交流する場を設けて、それぞれのグループから1名位ずつ運協の方にも参加してもらって、こういった場で声をあげてもらった方が本当にいい協議会が成立するのではないかとこのように思いました。意見です。

<会長>

ありがとうございました。今御提案いただきましたことを事務局の方でも一考しておいていただきたいと思います。

<委員>

私も市民代表でここに4人出ているのですが、その数は半分に減らしても運営協議会に包括の職員も、適切な数はわかりませんがぜひ入れてほしいと思います。当事者がここで協議しなければ他の人がいくら協議しても意味は薄いと思います。発展的な解決にはならないと思いますので、来年度からはぜひお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

3 その他

<事務局>

資料6「平塚市地域包括支援センター運営協議会公募委員の応募状況について」に基づき説明。もし身近な方で御推薦される方がおられれば、3月末まで募集期間がありますのでよろしくお願ひいたします。

<高齢福祉課長>

当協議会の委員の皆さんは任期が2年となっており、また4月に改選となりまして、団体

の方から推薦をいただくような形で今後進めたいと思いますが、特に本日御出席いただいている4名の公募委員の皆さまについては今回が最後となりますので、簡単で結構です一言ずつ感想等をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。それでは名簿の順番に一言お願いいたします。

<委員>

参加させていただきまして、私は大変勉強させていただきました。と言いますのも私は今独居でございまして、今健康でいますけれども市の方ではこういった包括センターがあって、そこに飛び込めば自分の行く先がどうか相談に乗っていただけるということを知ったことがとてもプラスです。そしてまたアンケート調査をやったらみんな歳を取った人が、お友達と声掛け、みんなと声掛け・見守りを希望している。そして、それを実際にやりたいという意見もありますね。私自身も今健康ですから何かできることがあったら参加したいと思っています。ここで色々な議題の中で自分がそれにつながるボランティアができればいいかなという希望もあってきましたけれども、まだ見つけられておりません。今傾聴ボランティアで施設に行っているのですけれども、やっぱり各家庭のお話してほしいなと方に訪問してやりたいなと思っているのですけれども、そういう窓口がわからないのでそういうことも知りたいなと思っています。色々と市の方でこうやって一生懸命計画してくださっていることに目が開きましてありがたいと思っております。

<委員>

どうもありがとうございました。今日福祉計画の説明を伺いまして、非常に良くできていて何と素晴らしいことかと思ひました。感激しました。それからこういう地域ケア会議の全体の図というのも何度もここでもほかでも拝見しましたが、これは本当に机の上でのことではなくて心を込めて地域に市の方も出向いて直接現場で意見を拾い上げていただいて、どんな小さなことでもいいですので堅実に歩みを進めていただきたいと思ひます。私も二次予防のことで栄養歯科のことで今度市のことを引き受けておりますので、さっきの「よりそいノート」にありました食べる所の部分をちょっと参考にさせていただいて、福祉村とか地域でももう少し具体的に力になりたいと思ひました。そういうふうに使っていただきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

<委員>

どうもありがとうございました。まだまだ勉強中ですのでわからないことだらけなのですが、ここでお勉強させていただいてためになりました。ありがとうございました。やはり私もこの冊子(計画)はすごく身のあるものだと思います。ただ全体的に周知が行き届かないのは、やっぱり不透明さを市民の方々は感じていると思うのですね。それは永遠の課題ですので頑張っていきましょう。

<委員>

2年間どうもありがとうございました。私も前の発言と重なるのですが、色んなサービス事業があるのですがやはり認知度が低いのもう少しそれを広めてほしいのですが、またそれもなかなか難しいと前にお話されていまして、その認知度をまず広めてもらうことと、あと介護する者、在宅での介護者も孤独感を募らせていると思うのでそちらの方にもできたら何らかの手を差し伸べていただけたらなと思ひます。ありがとうございました。

<高齢福祉課長>

ありがとうございます。ただ今4名の公募委員の皆さまから貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。今いただいた御意見も踏まえまして、次期計画を作成していきたいと考えておりますので、今後とも何か御意見がございましたら色んな方法で意見をいただくことができますので今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

<会長>

委員の皆さまには貴重な御意見をたくさん発言していただきまして、円滑な議事進行にも御協力をいただきありがとうございました。平成25年度第3回目の運営協議会に係る事項はすべて終了しましたので、委員の皆さま、どうもありがとうございました。

以 上